名医シリーズ

明日の医療を支える

信頼のドクター

2016年版

浪速社

名医 Doctor

信頼の主治医

地域と共に歩み、明日の医療を支える実力派病院

リウマチ、膠原病、腎臓病のスペシャリスト集団

Tomorrow's medical treatment is supported.

Masayuki Inoo

「開業当初からリウマチ、膠原病、腎臓病の3つを専門とし、患者さんの求めに応じた医療を提供してきました。小回りのきく専門施設として地域医療に貢献していきたいと思っています」

医療法人社団清仁会 宇多津病院

院長 猪尾 昌之

Close up

瀬戸内海に面した香川県のほぼ中央に位置する宇多津町は、古くから讃岐の政治、経済、文化の中心地として発展を遂げてきた街だ。室町時代には足利義満の側近であった細川頼之公によって管領の中心地として栄えた。

温暖で雨が少なく日照時間が長いという瀬戸内式気候を利用した塩田が盛んで、全国屈指の「塩のまち」として知られてきた。

瀬戸大橋が建設されたのを機に広大な塩田跡地の開発が進み、東に坂出市、西に丸亀市の市域に挟まれながらも、豊かな財政をバックとして独自の町政を推し進め、平成の大合併にも与することなく発展を遂げている。

町内には由緒ある神社仏閣や古い日本家屋の「町家」が今も多く残り、四国八十八ケ所霊場の第78番札所「郷照寺（ごうしょうじ）」や遷座１２００年の歴史を持つ「宇夫階（うぶしな）神社」など、伝統文化を今に伝える貴重な建造物が多く存在する。

この歴史と文化の香り高い宇多津町で、平成11年の創立以来地域住民の健康を守り続けてきたのが医療法人社団清仁会宇多津病院である。院長の猪尾昌之医師は開院以来、リウマチ、膠原病、腎臓病のスペシャリストとして地域医療に邁進してきた。

交通至便な宇多津病院には、近隣だけでなく岡山や愛媛、徳島といった四国各県からも多くの患者が訪れる。

病院名に込められた地域医療への思い
平成27年４月にクリニックを統合し専門病院へ

宇多津病院の前身は、平成11年に創設された宇多津クリニックと同15年創設の宇多津浜クリニックだ。猪尾院長は香川医科大学で現理事長の倉田典之医師に師事し、リウマチ・膠原病専門医の道を歩んできた。クリニック開設当時をこう振り返る。

「リウマチや膠原病の専門医はもともと絶対数が少ないうえ都市部に集中しています。こうした慢性的な疾患は診断から治療までどうしても時間がかかるものです。地域の患者さんにとって、専門的な治療と長く診療を受けられる施設はどうしても必要だと思い、倉田理事長と共にクリニックの開業に踏み切りました」

リウマチや膠原病などの慢性疾患をかかえた生活は、病気による肉体的な負担だけでなく、家計や人間関係など様々な苦労がつきものとなる。こうした現実を受け入れるには長い時間が必要で、ともすれば患者は孤独になりがちだ。

困った時には他人に頼らざるを得ない不安感から、うつ病など別の疾患を発症するケースも多い。一人暮らしの高齢者が増加している今日、安心して通院でき、また気兼ねなく入院できる専門的な医療機関が、どの地域社会でもなくてはならないものだ。

当初、クリニックからスタートした宇多津病院だったが、地域に根差した長年の努力が実って、平成27年4月にそれまでの宇多津クリニックと宇多津浜クリニックを統合して「宇多津病院」が誕生した。通常、民間病院で地域名を名称に盛り込むことは珍しいが、「宇多津病院」という名称には、慢性疾患に苦しむ患者を一人でもこの地から救っていきたいという猪尾院長の熱い想いが込められている。

既成観念にとらわれない柔軟な発想と行動力で、病院建設を成し遂げた猪尾院長だが、現在宇多津病院は、リウマチや膠原病、腎臓病のほか、肝臓病、糖尿病、心臓病、呼吸器疾患、心療内科、外科、整形外科、リハビリテーションなどの専門外来を行っており、高い専門性を持った医療施

設として地域医療の重要な一翼を担っている。

地域密着と高い専門性で地域住民の暮らしをサポート
リウマチ、膠原病、腎臓病をはじめ慢性疾患外来を充実

「地域住民の守り神でありたい」と願う宇多津病院

かつて膠原病は5年後の生存率が3割程度と言われていた難病だったが、今では臨床研究の進展と医療技術の進歩によって、ステロイド治療をはじめとした治療で症状が改善されるようになった。

同じ免疫系の病気でも関節リウマチは効果的な治療法がなかなか確立されず、診療に当たる医師も疾患を抱える患者も忸怩たる思いをつのらせてきた。しかしここ10年ほどで画期的な治療法が登場し、罹患一年以内に投薬や生物学的製剤を施せば進行を抑えることができ、完治の可能性も出てきた。

一方、腎臓はかなり悪くなるまで症状が現れないため「沈黙の臓器」と呼ばれている。医療費抑制の動きが強まる中、自覚症状が無ければ敢えて検診の為に病院を訪れることもなく、症状が進んでギリギリまで我慢するケースも珍しくない。

「腎臓の働きが10％以下になると老廃物が体内に溜まり、

初めて色々な臨床症状が出てきます。そうなると透析療法などの治療が必要になってしまいます。このため最近ではより早期に発見して早期に治療介入できるように、慢性腎臓病（ＣＫＤ）という概念が提唱されるようになりました。関節リウマチも膠原病も腎臓病も慢性化する前に、とにかく早く受診に来て下さい」と猪尾院長は声を大にして語る。

宇多津病院はリウマチ、膠原病、腎臓病の専門施設で猪尾院長をはじめ医師は全員専門医の資格を有している。地域に密着した病院であるとともに高い専門性を持つ医療施設として「地域住民の守り神でありたい」という創設以来の志が脈打っている。

「患者さんの中には30年、40年とクリニックができる前から診療されている患者さんも多くいらっしゃいます」という。患者の声にじっくり耳を傾け、患者に寄り添う診療姿勢を貫いて地域社会の強い信頼を集めてきた宇多津病院は、専門医療施設であると共に、地域社会の癒しと安心の拠り所としてかけがえのない存在なのだ。

それぞれが高い専門性を発揮するチーム医療
「ここで診てもらって良かった」と思える診療を提供

古来地縁、血縁社会で培われてきた日本の風土では、個人を犠牲にしても村や家、組織の利益を第一義的に考える文化があった。現代風に言い換えれば、会社や組織のため、個人プレーよりチームプレー、仕事ではスタンドプレーではなくチームメイトとの協調、コラボレーションで成果を積み上げていこうという考えだ。

つまり全体との調和、チームワークの中で個の技量や個性的な能力を発揮してチーム全体、組

織や会社に貢献していくことが当然のこととして受け入れられてきた。

昨今、価値観の多様化や社会構造の複雑化に伴ってあらゆる分野で専門分化が加速し、突出した個の専門能力にスポットが浴びせられがちだ。しかし、専門分化すればするほど、それぞれの分野のエキスパートがタッグを組んだチームワークの相乗効果に大きな期待が集まる。

医療の現場においてはますます高度化する治療法などに対処するため、医療に携わる多種多様な専門職がそれぞれの高い専門性を発揮し、目的と情報を共有することが欠かせない。

「私たちの病院が専門としているリウマチ、膠原病、腎臓病については、各部署から委員を出し定期的に勉強会やカンファレンスを行うなど、テーマごとのチーム医療を徹底して実施しています。これはクリニック時代から変わらぬ当病院の基本スタンスです」と猪尾院長は強調する。

クリニック時代から変わらないチーム医療の徹底

宇多津病院では病院スタッフの専門的な研修会だけでなく、患者主体の勉強会も盛んに行っている。「家族の方も参加してくれるので、病気に対する理解も深まり、患者さんの家庭での生活もより円満なものになっているようです」とその効用を語る。

病院は患者に対して、単に病気を治すだけの形式的な対応に終わってはいけない－というのが猪尾院長のポリシーでもある。「患者さんがこの病院、この医師にかかって良かったと思ってもらえるような診療をしなければなりません。そのためには医師だけでなく、医療スタッフ皆が力を

合わせて、患者さんが満足してもらえるために何ができるのかを常に考える必要があります」と熱く語る。

チーム医療は、医療の質、患者サービスの向上に繋がると同時に、個人の能力を引き出し、個人の全人的な成長にも繋がるのだ。猪尾院長を先頭に志を一つにしたスタッフ一丸の気概がみなぎる。

家族も参加する患者主体の勉強会

日本リウマチ学会の研修病院に認定
日本の未来を見据え次世代の医療人育成にも尽力

医療費の経年にわたる削減や新研修医制度導入、国民の医療過誤への意識増大による医療従事者の過重負担など多くの要因が絡まり、いまや日本は「地域医療の崩壊」と呼ばれる事態が進行しつつある。また超高齢化に伴う慢性疾患の増大による医療費の国民的負担の増加や、病院医療の崩壊に伴う小児・産科・救急医療の破綻など日本の医療を取り巻く状況は極めて深刻な状況にある。

とりわけ地域における医師不足は改善が急務の状態だ。宇多津病院は日本リウマチ学会の研修病院として認定されており、次世代を担う若手医師の研鑽に一役かっている。

「リウマチ、膠原病に加え、腎臓病に関しても認定を申請中です。研修病院の認定を受けられることはクリニックではできなかった病院ならではの大きなメリットです。若手医師が研修に来る

ことは私たちにとっても良い刺激になりますし、多くの優秀な医療人を育てることは地域医療に欠かせない問題です」と猪尾院長は語る。

かつてリウマチ、膠原病の専門医を志す者は「それでは飯が食えない」と言われた時代があったという。しかし、高齢化社会が進行し慢性的な疾患が増大する中、長年リウマチ、膠原病の診療に携わってきたプロフェッショナルの存在は限りなく大きいものだ。

また、香川県におけるリウマチ・膠原病専門医の大半は倉田理事長の教え子ということだ。この分野における治療の発展と共に歩んできた猪尾院長を先頭にした宇多津病院で研修を進めることは、次世代を担う若手医師にとって貴重な経験になることだろう。

「医療は人なりと言います。いくら治療法が発達しても患者さんのために活かすことができなければ意味がありません。当院で若手医師や検査技師など多くの優秀な医療人が育っていることは喜ばしいことです」と猪尾院長は目を細める。

専門性をさらに高め、小回りのきく専門施設を目指す

「何かあったらとにかく来てください」

開業以来、慢性疾患で悩む患者の立場に立ち、「最後まで面倒を見る」をモットーに着実に業容を拡大してきた宇多津病院だが、猪尾院長は今後を展望してこう語る。

「当院は開業当初からリウマチ、膠原病、腎臓病の3つを専門とし、患者さんの求めに応じた医療を提供するというスタンスを貫いてきました。これまで取り組んできた分野の専門性をさらに高め、大きな病院ではできない小回りのきく専門施設として地域医療に貢献していきたいと思っ

ています」

昔も今も医師を志す若者は優秀だ。しかしその優秀さが、費用対効果を重視するばかりに患者への気配り、目配りが疎かになっていないだろうか。いかなる時代であっても、医療は疾病の治療のためにあるのではなく、患者の治療のためにあるのだ。

医療崩壊が叫ばれて久しいが、「医師不足だから医者の数を増やせばいい」という単純な理屈で解決できるものではない。患者の訴えにはその患者のそれまでの人生がすべて反映されている。

患者の一言ひとことの訴えを正確に理解できる感受性、熱意をもってアドバイスする真摯さ、チーム医療を円滑に進められるコミュニケーション力などこれからの医師に求められることは多い。

倉田理事長とともに長年中讃地域のリウマチ、膠原病、腎臓病治療に携わってきた猪尾院長は、診療への想いをこう語ってくれた。

「患者さんには『何かあったらとにかく来てください』といつも言っています。慢性疾患は少しでも手を抜けば一気に悪くなります。最後まで面倒を見るという理念のもとに私たちはいつも待っています」

猪尾院長の穏やかな口調に、患者への温かい思いやりがあふれる。

PROFILE 猪尾 昌之（いのお・まさゆき）

徳島県出身。香川医科大学卒業。平成 11 年宇多津クリニック開院。同 15 年宇多津浜クリニック院長。平成 27 年 4 月宇多津病院院長。

所属・活動

日本リウマチ学会専門医、指導医。日本腎臓学会認定専門医。
日本内科学会総合内科専門医。日本透析療法学会専門医。

INFORMATION 医療法人社団清仁会　宇多津病院

所在地

〒 769 － 0205
香川県綾歌郡宇多津町浜 5 番丁 66 － 1
TEL：0877-56-7777　　FAX：0877-56-7373
URL http://www.utz.or.jp/

アクセス

JR 宇多津駅より徒歩 5 分

設立

平成 27 年 4 月

診療科目

内科、心療内科、外科、
消化器外科、整形外科、
リウマチ科、リハビリテーション科

診療時間

月～水・金・土
（9：00 ～ 12：00、14：00 ～ 18：00）
木（9：00 ～ 12：00）
休診日　木曜日午後、日曜、祝祭日

理念

宇多津病院は、リウマチ、膠原病、腎臓の専門施設です。その他、肝臓病、糖尿病、心臓病、呼吸器疾患、心療内科、外科、整形外科、リハビリテーションなどの専門外来も行っています。
地域に密着した病院であると共に高い専門性を持つ医療施設として、皆様のお役に立ちたいと願っています。

9784888544955

ISBN978-4-88854-495-5
C0047 ¥1800E

定価　（本体 1,800円＋税）

1920047018006

発行　株式会社 ぎょうけい新聞社
発売　図書出版浪速社
企画　産經新聞生活情報センター

Tomorrow's medical treatment is supported.

宮城歯科クリニック	院長　宮城　正照（まーてる先生）
医療法人社団さわやか会 沖健康クリニック	所長　沖 島助
旭泌尿器クリニック	院長　山口 旭
医療法人社団光洋会 竹尾歯科	理事長・院長　竹尾 昌洋
医療法人社団清和昌綾会 飯沼病院	院長　飯沼 久美子
三浦歯科医院	院長　三浦 靖
ひらの整形外科クリニック	院長　平野 薫
医療法人社団 かわかみ整形外科・小児科クリニック	理事長・院長　川上 不二夫
社会医療法人財団仁医会 牧田総合病院	理事長　荒井 好範
医療法人社団鶴松会 成城松村クリニック	院長　松村 圭子
出沢明 PED センター	院長　出沢 明
医療法人社団寿会 永山医院	理事長　永山 多寿子
医療法人社団ペルセウス 北浜こどもクリニック	理事長・院長　北浜 直
松本クリニック	院長　松本 伸治
くぼりクリニック	院長　久堀 保
医療法人社団紀翔会 花泉歯科医院	理事長　佐藤 アリサ
医療法人社団清仁会 宇多津病院	院長　猪尾 昌之